

「会員短信 16」

「歌と俳句と」 柳澤京子

この度、執筆の依頼をいただきました。若い時はすぐにOKで、投句も早かったのですが、八十五歳も過ぎますと脳疲労が出て参ります。文章も俳句も思うように出来なくなりました。

私は子どもの頃、宮城県の北部に住んでいました。細倉鉱業所があり、最盛期は岐阜県の神岡鉱山に次ぐ、日本を代表する鉛、亜鉛の産地でした。戦中は二百キロ爆弾が投下されましたが、不発弾で終わり、戦後に処理されました。もし爆発していたら今の私の存在はありませんので、生かされた不思議を思います。

現在の在住地は、宮城県中心部の田園地帯です。近景、遠景、夕日の沈む風景、好天の時には言葉で表現出来ないほどの素晴らしさです。私は、ケアハウスに入所し、コーラス部で週に一回、金曜日に歌の練習をしています。喉を鍛えるつもりで参加し、早や入部三年目となりました。娘の二女はソプラノ歌手として活躍しており、孫に負けまいと頑張っています。

俳句も以前のようにすらすらとはいかず時間がかかりますが、自分のペースで楽しみたいです。

カルガモの親子疏水に水輪描く

(平成二十八年『アイラブ疏水・全国俳句コンテスト』銀賞)

幸せの種を蒔きたやクリスマス

初春の発句も生まれぬ脳疲労